

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

# 北鎌倉だより

会報

2012年10月 NO.27



オギ原の紅葉

## 「台峯と周辺緑地の未来を見つめて」

### 目次

「私と鎌倉」・巻頭言・総会報告	2	活動報告	8
近隣緑地の状況 籾源治と洞門山	3	台峯の周辺 歴史つれづれ	10
選出された理事・監事の顔ぶれ	4	会員の集い・カレンダーのご案内他	11
会計報告	6	台峯の自然・冬にシベリアから渡って	
台峯維持管理基本方針の冊子	7	来る野鳥たち	12

## 私 と 鎌 倉 市民が動かす保全

なだ いなだ

鎌倉に移ってから20年以上になります。それまで東京を中心に10回以上引越しましたが、動き疲れたし、ここは東京に比べて空気がいい。

精神科医として国立療養所久里浜病院に勤めていたとき、アルコール依存症患者と一緒に緑地を歩きました。鎌倉は花巡りなど歩く目標があるのでよく訪れ、評判がよかったですね。

鎌倉三大緑地の一つ、台峯緑地の保全活動に長年携わっています。鎌倉の魅力は豊かな自然。この自然を壊すのは、鎌倉を殺すようなもの。自然保護は市民がやらないと行政は動きません。大勢の人が目を光らせ、虫食いの開発を監視する必要があります。世界遺産よりも大切なことです。(2012年9月14日神奈川新聞「武家の古都 鎌倉新聞第九号」より再録しました)

## 巻 頭 言

理事長 出口克浩

後世に残す大切な「谷戸台峯」の鎌倉市による買取決定から七年、台峯緑地基本設計に基き、いよいよ来年度には基本設計の実施が予定され、供用(一般公開)に向け節目を迎える事と成ります。

台峯を囲む地の保全運動と合せ、発足以来毎月の活動も、今年九月で167回となる歩く会(観察会)、山の手入れ、そして並行して続けて来たマップ作り(当地の自

然を多面的に観察記録統計)は今後施行への重要な参照事項と成る事とされます。会員の皆様とともに台峯を歩き、将来へ継承していきましょう。

## 総 会 報 告

第11回総会が6月3日山ノ内公会堂にて開催され、まず議長に出口克浩理事長が選出されたのち、審議にはいりました。

第1号議案として、2011年度の事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録についての説明があり、林監事より適正との監査意見がなされました。(P.6参照)

質疑に入り、台峯の「谷戸の池」で近年憂慮されている水質悪化、土砂堆積の対策について質問がありました。話し合いの結果、現在、台峯緑地が非公開の緑地であり、抜本的な対策は来年度以降の「実施設計」で確定すること、抜本的対策は平成27年度以降になること、これらは、基金のみならず、鎌倉市を含む「台峯保全連絡会」で協議される事項であることを確認しました。

続いて、第2号議案として、2012年度の事業計画書および収支予算書が提案され、これに対してホームページの閲覧回数少ないことや予算計上されているにも係らず基金の参加がなかった行事があること等について指摘する発言がありました。

最後に第3号議案として理事、監事の改選に係る提案がなされました。(P.4参照)

以上の審議の結果として、3議案とも賛成多数で原案通りに承認されました。

近隣緑地の状況 藤源治と洞門山

藤源治

藤源治緑地の保全に関し、今年2月の鎌倉市議会建設常任委員会に於いて当基金の久保理事が陳述人として意見を述べました。台峯の豊かな自然は神奈川県地域環境評価書でA1に位置づけられており、これを維持するために藤源治緑地をはじめ、台峯の周辺緑地がいかに重要であるかを話しました。

藤源治緑地はこれに先立つ昨年9月に“鎌倉市緑の基本計画”の改定で都市緑地候補地となったものの、その後、緑地保全計画に水をさすかのように、業者から鎌倉市の条例に基づいた中規模開発の造成計画が届出されたのです。しかも、最終的な全体の面積は5,000平米にも及ぶであろうことが明らかになってきました。

今回届出された、1,000平米弱の造成計画によると、用地の真ん中(緑地の斜面)に幅員約4.5m、長さが約73mの道路を貫通させてから、宅地を造成することになっています。台峯から眺めると、緑の斜面の真ん中に舗装道路が突然出現することになるのです。しかも、その両側の斜面緑地が連鎖的に宅地造成される懸念が出てきました。宅造のために、いきなり緑地を切り開いて道路を先に造成することは納得できません。

都市計画法第33条に「道路は予定建築物の用途、敷地の規模及び配置を勘案して環境の保全上、…」とあります。つまり「宅地を作るために道路があるのに、道路

が先という計画自体はおかしい」ということが明記されているのです。

この件に関し、地元の住民が鎌倉市長に会見し、申し入れを行っております。その際、市長からは「相手があることですので、もう一度所有者に話をしていきたい」との回答を得ました。市議会においても6月の建設常任委員会にて石川議員が松尾市長にこの件を確認しています。これを受け、鎌倉市みどり課が業者と保全に向けた交渉を始めました。

現在、宅造予定地(藤源治緑地)の中には、都市計画道路と“鎌倉市緑の基本計画”による都市緑地候補地とが併存しており、複雑な事情を抱えておりますが、鎌倉市は、都市計画道路を除いた部分の保全交渉を始めています。また、都市計画道路については、9月10日当基金は市の都市計画課あてに「廃止」するよう意見書を送付しました。

まだまだ先の見通しは不透明なのですが、私たちは、しっかりと見守っていく所存です。

洞門山

「洞門山」の保全が決まりました。横須賀線が大船から北鎌倉の駅に差し掛かると、左手にベンガラ色の隧道のある山です。

今年3月に業者と鎌倉市で売買契約を結び保全が確定したのです。「洞門山を守る会」では感謝の気持ちで「ありがとう、洞門山」募金を集め、9月11日257万円を鎌倉市緑池保全基金に寄付しました。

今後は鎌倉市と市民がどのような保全方法をしていくかを話し合う予定です。

## &lt; 理事 &gt;

## ● 新槇幸子

台峯保全のための27万の署名活動にお手伝いをしてから、頭の上の会の名称は変われどもその時その時に必要な雑用係を行ってまいりました。

身についた性分は変えられませんので、身体の許す限り、参加させていただきます。

## ● 和泉(いずみ)あき

山ノ内の横須賀線線路に近いところに、飼主に負けない位としよりの猫と暮らしております。

一応、会の窓口が私宅になっておりますので、なるべくみなさまとお近づきに成っておきたいと、山歩き其の他、ご一緒させて頂いておりますがいつまでもちますことやら、足手まといのならないよう気をつけながら、参加させて頂くつもりです。

## ● 島田哲夫

私は大船に住んでいます。毎年お正月に台峯を越えて、鎌倉に初詣に行きます。子供達がまだ小さかった頃からです。そのころ私は「台峯トラスト」の会員ではありませんでした。

最近会報のPDF化の作業を行ったのですが、初期の会報から、現在活躍されておられる方々のお名前を拝見しました。

先達の方々の尽力で台峯が守られたことを思いますと、感謝の念が湧き上がっ

てきます。私も新参ながら、お力になりたいと思っています。

## ● 久保廣晃

市内稲村ヶ崎在住。日本野鳥の会会員です。1986年に地元の方に教えていただき台峯を知りました。同じ鎌倉でも海の近くと台峯では自然の様子が違うので新鮮な驚きがあり、以来通い詰めるようになりました。

1998年より当会の台峯歩きのガイド役をしております。季節の良い時期だけではなく四季を通じて歩くことで、我が家の庭のごとく台峯に愛着を感じてもらえればと思います。台峯を歩く会は定例会にもかかわらず、ほぼ毎回新人の参加者があり、口コミで人の輪が広がっているようで嬉しいかぎりです。

里山の自然は、放置していると衰退してしまいますが、保全運動に関わった都会人？ たちが、一木一草を愛でながら鎌や鋏を片手に手入れを試みていることは、先進的な市民活動なのではないでしょうか。新しい形で里山を担う人たちのお手伝いをできればと考えております。

## ● 出口克浩 理事長

(前号をご覧ください : 編集担当)

## ● 本田隆史

台峯には化粧坂を越えてやってきます。ひと山違うだけで、気候も植物相も少し

異なるのは興味深いことです。

初めて理事になってから早や6年、少しずつ当会での担当分野がふえてきました。モニタリング(マップ作り)、会計、会報といったところです。引き続き、よろしく願いいたします。

● 望月晶夫

毎月行われる「台峯を歩く会」の司会をやっています望月です。

鎌倉に生まれ育ち今は山ノ内に居ります。30年程前に台.山崎方面を初めて訪れ、小学生の頃慣れ親しんだ自然に囲まれた鎌倉の原風景を目にしました。同時に大規模宅地開発の渦中にあることも知り、反対運動に係わる事になりました。8年前に台峯の保全是決定しましたが、5年後予定の供用開始までは最低見守る必要が有ります。

現在では、月1回の「台峯を歩く会」、季節ごとの「ホテル観察会」、「マツムシを聴く会」等々、又近隣の学校や外部からの台峯案内の要請に久保理事と一緒に対応しています。

● 望月眞樹

氏名：望月眞樹(マサキと読み男性です)

年齢：旧鎌倉市内から北鎌倉に移り「台峯」の活動に関わり始めたのが40歳後半、気が付くと20年ほどたちました。

役割分担：山道整備、市役所との窓口、連絡会メンバー

1998年10月北鎌倉の景観を後世に

伝える基金が発足してからずーと心がけていることがあります。それは「役に立つ」です。

小さいころ親から「役立たず」とか言われたことが記憶に残っているのでしょうか。今では「死語」になっている言葉です。「社会貢献」とか「ボランティア」などとは次元の違う日々の生活をしてゆく上での信条です。



< 監事 >

● 林 雄一郎

私は公認会計士の立場にて、当会がNPO 法人になって間もなく、監事に就任いたしました。皆様の浄財が台峯緑地の保身に活用されることを見守るのが役割です。

住まいは藤沢ですが、母は材木座、祖母は台の生まれで、台峯は身近に感じております。

山歩き、山の手入れ、モニタリングなど、理事の方々を中心に独自の事業が地道に継続されており、当会の実践を踏まえての保全活動に感心いたしております。

ほかに、石黒ひで(前理事長)、小田原茂夫、森泉定男の各理事がいます。

# 会計報告

(2011年4月1日より2012年3月31日まで)

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

(単位:円)

科 目		金 額	摘 要
収 入	正会員会費収入	78,000	@3,000円
	個人会員会費収入	255,500	普通会员@2,000円、家族会員@500円
	団体会員会費収入	9,000	@3,000円
	機関紙収入	500	1冊
	カレンダー収入	330,210	343冊
	民間助成金収入	153,500	みどりショップ他12件
	寄付金収入	36,600	10件
	受取利息	315	預金利息
	その他	2,556	保険料戻し他
収入計		866,181	
支 出	(緑地保全・管理事業)		
	整備作業費	17,978	道具購入および研磨費用
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	損害保険料	3,600	
	雑費	180	
	小 計	33,758	
	(普及・研修事業費)		
	通信運搬費	73,085	
	印刷製本費	362,989	カレンダー、会報、山歩きチラシ印刷
	編集費	70,000	カレンダーデザイン
	事務消耗品費	4,618	
	賃借料	54,000	山歩き会場使用料
	損害保険料	4,320	
	雑費	9,030	
	小 計	578,042	
(広報・出版事業費)			
通信運搬費	35,710	ホームページ回線使用料	
印刷製本費	8,910	しおり印刷	
広告宣伝費	30,000	鎌倉朝日広告掲載料	
小 計	74,620		
(交流・協力量業費)			
負担金	3,000	鎌倉NPOセンター年会費	
事務消耗品費	15,348		
小 計	18,348		
(管理費)			
通信運搬費	27,635	会費入金費用	
事務消耗品費	13,239		
賃借料	27,000	公会堂使用料	
雑費	5,058		
小 計	72,932		
支出計		777,700	
収支差額		88,481	
保 有 資 産	現金	196,853	
	当座預金	1,281,086	郵貯
	普通預金	830,064	郵貯¥17,731 / 三東U¥812,333
	定期預金	288,174	郵貯¥239,114 / 三東U¥49,060
計			
正味財産		2,596,177	

監事の林雄一郎先生より、適正との監査報告書を頂戴しております。

## 台峯維持管理基本方針の冊子が出来ました。

### ●管理作業と観察の指針

私たちは、台峯の買収が決まった後も、「実質的里山保全」を考えながら、草刈りなどの活動をしてきました。台峯緑地は、まだ一般公開されていないので、本格的な作業は出来ませんが、作業をしながらその影響を観察で確認する“モニタリング調査”を重ねてきました。今年の8月、これらの成果を基に、鎌倉市公園課が冊子をまとめてくれました。将来、草刈りの方法など、台峯の管理の仕方ですら市民の意見が割れた時、この冊子をひもときながら検討することになります。近年、全国的に市民参加で里山管理をしている緑地が多いのですが、実際の作業経験を基に、ガイドラインを冊子としてまとめた事例は少なく、鎌倉市では初めての試みです。

### ●都市型の里山保全作業

台峯は住宅地に囲まれた「都市型の里山」です。昔の里山のように多くの田畑を復元することはできません。その代り、里山の生態系を守るため、田畑の跡地を荒廃させない工夫が必要です。そこで、「湿地の保全方法」など、昔の里山管理ではあり得なかった、新たな作業を考案、試行する必要があるのです。またその成果を確認するために、生物の増減や分布を把握する目的の観察、「モニタリング調査」を並行して実施することになっています。これは、生態系保全の視点から里山の

管理手法を評価するというので、昔にはなかった新しい考え方です。詳しい内容は、台峯の、「基本計画」、「基本設計」に記載されておりますので省きますが、下記のような記述があります。

『オギ原の維持保全のためのササ刈り、ツル草（カナムグラ）除去作業』

「枯れたオギは、乾燥化と土壌の富栄養化対策として刈り取り処分する。オギ原に侵入したササを刈り取る、冬季に切株を剪定バサミで切り込み、翌年のササの萌芽を抑制する。成果を確認するモニタリング調査として、オギ原の植物の分布調査を行う。オギ原に棲む貴重なカヤネズミの巣の数を調べる。

『湿地の整備』

湿地（元田んぼの跡地）の畦跡地の復元をはかる。畔跡地に生えてきたアオキなど灌木の整備から始める。湿地内に水たまりを掘りカエルの産卵場所を確保する。モニタリング調査として湿地の地下水位の変化、ヘイケボタルの発生場所と個体数を調べる。

上記のような作業は、能率より丁寧な作業が求められるので、市民による手作業が不可欠です。また、高齢者や体力に乏しい人も活躍できる余地があることに注目したいと思います。より多くの方が里山保全に関われ、自然保護に役立っている実感を得られるような仕組み作りを目指します。（久保廣晃）

保全作業/作業目的・ポイント	作業主体	付随するモニタリング調査	実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ハシノキ林の下草刈り ハシノキに絡んだツルの除去やアオキ等の雑木の伐除。 ハシノキの実生に気をつけて、草刈りを行う。	市民	ハシノキ林の下草刈り後の植生調査 ハシノキ林の生育調査	市民	○						○
雑林地の手入れ 下草刈り、中根木の伐採を行う。 ヒノキ林の健全な密林環境を作るために、常緑等(高木)の間伐及び枯損木の伐除を行う。(間伐する樹木は採木運搬車で搬出したものに限る。)	市民	ヒノキ林内の植生調査	市民		○					

維持管理基本方針の冊子の一部より

.....  
活 動 報 告  
.....

「台峯を歩く会」

(2012年1月～8月) 望月晶夫

この会は、1998年11月「台峯トラスト」設立と同時にスタートしました。なだ元理事長も言われていましたが、「長く続ける事が重要です」の言葉通り大変長続きしています。

この8月で13年10ヶ月が経過、月1回の開催ですので計166回の開催で、参加人員も3,667名と成りました。当初は、開発予定地である、台峯を知ってもらう事が、「歩く会」の主目的でしたが、現在では、自然観察が主になっています。

「山道整備」、自然観察主体の「歩く会」、「モニタリング」がそれぞれ連携しながら台峯のあるべき姿を現場で体験し、実践を積み重ねながら、結果に結び付けたいと考えています。

以下本年1月より8月までの活動を報告します。(歩く会は当日30分程事前ミーティングを行い本日の自然観察のポイントと1ヶ月間の基金の活動内容を連絡しています。)

● 月例自然観察

「樹皮と樹形と枝先の形」の観察

クヌギ、コナラ、イヌシデ、ヤマグワ、カラスザンショ、ムクノキ、アカメガシワ、ネムノキ、ハゼノキ、ミズキ  
野鳥の観察 メジロ、ホオジロ、コゲラ、カワラヒワ、モズ、ルリビタキ、アオジ、ヒヨドリ

ヤマアカガエルの観察 ビオト-

プ、産卵、卵塊、オタマジャクシ  
シダの観察 ベニシダ、イタチシダ、ホシダ、ミゾシダ、イノデ、ホラシノブ、コモチシダ

早春に咲く花 ウグイスカグラ、ヤブツバキ、オニシバリ、キブシ、アオキ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ヒメウズ、ハコベ、キランソウ、ツルカノコソウ、ハコベ

道端の草 日当たりの良い尾根道で見かける花 日陰の谷戸道で見かける花

初夏のチョウと貴重なトンボ

6月の野草と木の花、木の実 カタツムリの仲間たち(ミスジマイマイ、ヒダリマキ)

梅雨明けに咲く樹木の花、湿地に咲く野草、日向で咲く野草

8月に台峯でよく見かける植物ーミズヒキ、ヤブラン、ダイコンソウ、コヒルガオ

- ホタル観察会 6/13 6/23 7/14 の3回。毎回120～130頭と例年より多い
- マツムシを聴く会 9/8 9/29の2回

台峯の赤道整備(「山の手入れ」)

望月眞樹

台峯緑地の「山の手入れ」は楽しいですよ！「さあ山の手入れ」に出かけましょう。その前に「知っておいてほしい」ことがあります。

当基金は1998年に産声をあげました。2002年になって、なだ会長名で「赤道整備に関する要望書」を当時の石渡市

長あてに提出しました。鎌倉市による台峯緑地全面買収が決まる2年前の話です。そのわけは？基金では設立後鎌倉市と地権者の好意により毎月台峯を歩いてきましたが里山は人が手を入れないと荒れ果ててしまうことを実感しました。そこで台峯緑地内で鎌倉市が所有する山道(赤道と称す)だけでも安全に歩けるよう「手入れ」をしたいというものでした。

幸い市から許可が下りましたが対象地域はあくまでも市が所有する歩道のみということで、散策する市民の安全確保が作業の主たる目的でした。この状態は現在も続いており、2017年の供用開始(役所言葉ですみません)迄、続くこととなります。

それまでは「条件付き作業」いわば「仮免」状態での作業と理解してください。前置きがだらだら続きました。(失礼いたしました)



<写真1>

さて作業の内容ですが、翌第3日曜日に行われる台峯ウォーキングに参加する方々の安全な山道の確保が第一となります。武器は物置小屋(写真1参照)に格納されている用具とそれを使いこなす参加者のパワフルな労働力です。第二に注意を払うのが自生する植物(生物)の

保護です。なので、作業は手作業が中心となります。写真2はぬかるんでいる散策路を手作業で枝を敷きつめて補修したものです。手作業の素晴らしさは、同じ場所で鳥や風の音をエネルギーに台峯と肌で会話することができることでしょうか。



<写真2>

### 「マップ作り」

近年、脚光を浴びている「モニタリング」と称される生き物調査のことです。一般的な生き物調査との違いは、たくさんの種類や珍しい生き物を探すのではなく、その土地でよく見られる動植物を何種類か選定し、分布変化や増減を長期間調査することです。専門知識をあまり要さず、誰でも参加できます。

今、草刈りなど台峯で手入れ作業の試行が始まっていますが、その成果と影響を確認しています。密生したササを刈って、苗木を植えた場所に、コオロギやバッタ類が増えてきたことを確認した他、散策路沿いの草刈りと野草の増加、主な野草の分布地点などを調べています。

台峯の周辺 - 歴史つれづれ -

山ノ内配水池へ佐助が谷を通って行くと、途中で幅広ながら急な上り坂の切通しとなり、左に銭洗弁財天への隧道が、右の岩肌には何故か半円柱状に縦に穿たれた窪みが10程並んでいる。

幼い頃の筆者にはこの凹みが大層不思議に思われ、考えた末に公衆便所の小便器であろうとの結論を得た。以後友達と通るたび並んで立ちションしたものである。早蕨の下を岩走る垂水は樋を滴り落ち、側溝で



合流して坂を下って行った。確かにトイレに違いない。<坂上から見た窪みの列>

さて山ノ内配水池に着くと、南に桔梗山と思しき緑が見える。名の通り桔梗が咲くのだろうか。この東南側を大仏と葛原が岡を結ぶハイキングコースが通っている。

昭和20年4月15日に大仏側から歩いたのは、『終戦日記』の中の大佛次郎である。しかし7月5日に再び通ろうとしたところ、途中立入禁止のため葛原が岡に抜けられなかった。B29による爆撃が続き、間もなく敗戦という頃だった。

「横須賀海軍警備隊戦闘詳報」によると、その頃「佐介山」には戦闘人員31名と七・

五糎野戦高射砲3門が配備されており、更に十二・七糎連装高角砲2基建設中とある。小さな砲ではB29に歯が立たず、戦艦大和にも搭載されたという巨大な砲を設置しようとしたのだろう。砲身だけで3トン、砲架まで含めると20トンにもなる代物だったらしい。

この「佐介山」とはどこか？終戦直後の米軍撮影による航空写真を見ると、桔梗山に穿たれた2つの穴は建設中の陣地を、また山には稀な太い道路は物資を運んだことを推測させる。

つまり、いま歩いてきた佐助が谷の切通しも、葛原が岡と桔梗山との間の、ハイキングコース内にも係らず両側に家の建ち並ぶ道路区間も、整備されたのは高射砲陣地構築のためだったのだ。大佛次郎の通行を妨げたのもこれだろう。しかし大型砲が設置される前に敗戦を迎えたいらしい。

桔梗山を訪ねてみよう。桔梗どころか藪に覆われているが、直径10m、深さ5mはある、空に向いた穴を発見した。ぽっかりと戦争を象徴する空虚であった。

小便器については立ち小便がもはや憚られる年頃になってから古老に尋ねたところ、これも砲を引きずり上げるために丸太を嵌めて支えにしようとしたとのこと。本件につき寡聞にして文献に接したことがない。伝聞形ながら備忘として記しておく。

本田隆史

(前々号の「潤光女学校」は当時「潤光学園」でした。ご指摘に深謝します。)

## 「会員の集い」ご案内

来る11月23日(金、勤労感謝の日)13:30 ~ 15:30に山ノ内光照寺にて、毎年恒例の「会員の集い」を開催いたします。

別途ご案内申し上げますが、なだ先生にお話いただく予定ですし、一般会員の皆様で親睦を図る機会でもありますので、ぜひご参集ください。

## 活動記録

(2012年3月~2012年9月)

- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1 総会              | 6 / 3  |
| 2 理事会             | 3 / 4, 4 / 1, 5 / 6, 6 / 3, 7 / 1, 8 / 5, 9 / 2        |
| 3 鎌倉市都市計画課あて意見書送付 | 9 / 10   |
| 4 台峯を歩く           | 3 / 18, 4 / 15, 5 / 20, 6 / 23, 7 / 15, 8 / 19, 9 / 16 |
| 5 山の手入れ           | 3 / 17, 4 / 21, 5 / 19, 7 / 14, 9 / 15                 |
| 6 モニタリング          | 3 / 4, 4 / 1, 5 / 19, 8 / 18, 9 / 15                   |
| 7 台峯保全連絡会         | 3 / 27, 4 / 26, 6 / 28, 5 / 20, 7 / 26, 8 / 29, 9 / 27 |
| 8 市との現地視察         | 4 / 18, 6 / 26, 7 / 27, 8 / 30                         |
| 9 ホタル観察会          | 6 / 13, 6 / 23, 7 / 14                                 |
| 10 マツムシを聴く会       | 9 / 8, 9 / 29  |
| 11 北鎌倉女子学園生徒の案内   | 3 / 14   |
| 12 「みどりショップ」総会出席  | 6 / 18   |
| 13 当基金乗作成         | 3 / 末  |
| 14 ホームページ更新       | 9 / 末  |

## 伝言板

### <カレンダーの販売>

例年同様、台峯のカレンダーを作成・販売いたします。(頒価: ¥1,000)

今回も会員の池英夫さんが鳥の写真を提供してくださり、美しいカレンダーが出来上がりました。壁に掛かった小さな窓から、月替りでかわいい小鳥が挨拶してくれたら、何と楽しいことでしょう。

お求めは鎌倉地区なら島森書店、大里書店、たらば書房(いずれも予定)までお願いします。大船方面では書店が昨年からなくなり、ご迷惑をおかけしておりますが、ゆうちょ銀行の振替払込サービスで注文いただければ、郵送もいたします。(頒価および郵送料の計¥1,180/部)

- 口座番号:00250-2-20454
- 加入者名:北鎌倉の景観を後世に伝える基金
- 通信欄・ご依頼人:部数、送付先など必要に応じて記入ください。

### 編集後記

今号から、編集担当者の一部が替わりました。不慣れでお見苦しい点多いかと思いますが、ご容赦願います。ところで、

皇居の松が老齢化したので伐採するそうです。できた材をどうするか協議した結果は、「電柱でござる。松の老化は」 奥本大三郎氏による

### 会報27号

発行日 2012年10月31日  
発行者 NPO法人  
北鎌倉の景観を後世に伝える基金  
事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内704-9  
(和泉方)電話:0467-47-9892  
HP www.kitakamakura-daimine-trust.org  
写真提供 石原瑞穂・市川節子・久保廣晃  
本田隆史・望月眞樹

## 台 峯 の 自 然・冬にシベリアから渡ってくる野鳥たち



アオジ

胸から腹に縞模様がある。台峯の道沿いに多い、茂みの中で。チッ・チッと鳴く



シメ

文鳥のような鳥、スズメより少し大きい。よく見ると複雑な色合いが美しい。



シロハラ

胸から腹が白い。アカハラと同じような習性、シベリアから渡ってくる。



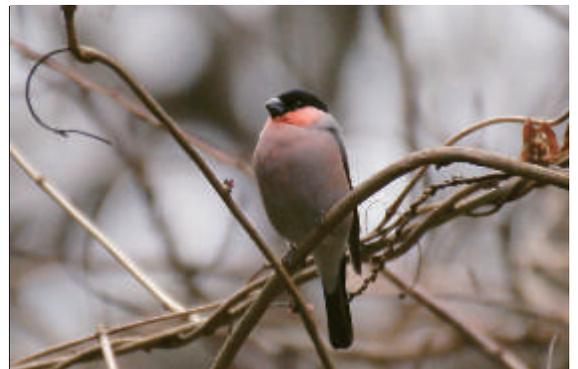
アカハラ

胸から腹が柿色。森の中で落ち葉をめくりながら餌をさがす。警戒心が強く、キョッキョッと鳴きながら飛び立つ



ツグミ

シベリアから渡ってくる野鳥。畑の周辺などに多い。クエックエツと鳴く



ウソ

年により渡ってくる。数羽の群れを作る。ヒーッ、フーッと口笛のような声。